

本校は、学校教育法および同施行規則に則り学校評価制度を制定し、文部科学省が定める「<改訂>学校評価ガイドライン」及び私立専門学校等教科研究機構による「専門学校等評価基準書」に準拠して「学校評価」を実施しております。「学校評価」を実施するに当たり、最初のステップとして基礎的な資料を得るために毎年2月に生徒及び保護者へのアンケート調査を行っています。アンケート結果は本校教職員からなる自己評価委員会で議論し、更に保護者代表が加わった学校評価委員会での議論を経て、教育活動の一層の向上につなげております。2010年度の自己評価につきまして以下に公表させていただきます。

学校法人 天王寺学館
理事長 富永 桂多

関西外語専門学校 国際高等課程
校長 花畑 好一

(1) 教育方針及び教育全般について

本校入学に際し、「生きた英語」の必要性や日本のグローバル化を意識した保護者は9割に達しています。一方、生徒の85%は「生きた英語」を学びたくて本校を志願しておりますが、入学に際して日本（社会）のグローバル化を意識した生徒は6割にとどまっています。

2010年は、楽天やユニクロが英語を社内公用語にすると発表したほか、多くの日本企業が日本人・外国人を問わず有能な人材を採用する方針を明確化した、「グローバル人材採用元年」に位置付けられたと言われております。少子高齢化・人口減少傾向社会において、企業が生き残りをかけてグローバル展開を加速している実態がいよいよ浮き彫りになってきました。本校の英語・国際教育の必要性がますます認識される時代であり、同時にその真価が問われていると言えます。英語運用能力がある「真の国際人」を育成する、という本校の教育目的、国際社会で通用する「個の確立」を目指す教育理念は、まさに時代のニーズに合致したものであると評価されます。また、教職員は、後期中等教育機関として高校生にふさわしい知能・教養を習得させ、グローバル社会で活動できる能力を養うよう鋭意努力していかねばならないことを再認識させられています。

アンケート結果では、本校の教育方針や教育全般にほぼ全員の保護者が賛同し、96%の保護者が本校に「子どもを入学させて良かったと思う。」と答えています。教育活動に尽力する教職員にとっては、ほとんどの保護者が本校の教育を高く評価して下さっていることに勇気づけられております。しかし、100%を目指して更に工夫・改善に取り組んでいかねばならないと考えております。

(2) 学校生活及び授業全般

「有意義な高校生活を送っているようだ」という調査項目についても、9割を超え

る保護者が評価しています。1・2年生では8割を超える生徒は、有意義な高校生活を送っており、同時に「授業が楽しい」と答えています。しかし、今年3月に卒業した生徒の中に否定的な回答が散見されました。卒業生の多くは、国際系・政策科学系・外国語系などの大学（学部）に進学しましたが、実際に大学で授業を受けてみたところ、本校の授業が楽しかったばかりでなく、本校の授業のレベルの高さを実感して、再評価しているという声を多数聞いております。更に多くの生徒が「授業が楽しい」「有意義な高校生活を送っている」と実感できるよう、授業の工夫に加え、且つ多様な教育機会を提供していきたいと考えております。具体的には、2011年度初めて、「模擬国連」以外の国際プログラムへの参加を促し、有志の生徒がアジア15か国の高校生と英語で議論する「アジアユースサミット」に参加しました。今後、各種国際プログラムへ参加することや他校との交流機会など、外部からの評価を実感できる機会を増やすことを検討していきます。

また、2009年度の自己評価で改善目標に記した、「生徒個人の興味や進路目標に沿った選択科目の導入」につきましては、2010年度に選択科目制度を構築し、2011年度より導入しております。

(3) 英語教育

英語教育については、本校は「生きた英語教育」に主眼を置き、実践的英語運用能力の養成に努めています。現代の日本社会で「実践的英語運用能力」が習得できているかどうかを客観的な基準で確認する方法としては、TOEICが適当であると考えられます。本校では、TOEICは英語力を測るひとつの指標に過ぎないことを認めつつ、卒業までにTOEICスコア550点～750点取得を目指し教育を施しておりますが、2010年度卒業生の6割がTOEICで650点以上を取得して卒業しました。また、ほぼ4人に1人が卒業までにTOEIC750点以上を取得しました。ちなみに、2009年度卒業生では、TOEIC650点以上取得者が4割弱でしたので、卒業年度を単純に比較しても、本校の英語教育力は着実に向上していることがわかります。

なお、TOEICの受験は、3年生が大学受験に際し必要に応じ個人で受験しているほか、学校では2月下旬にTOEIC(IP)を受験しています。学校での受験時期が学年末試験前後であり、生徒に負担が大きいことが明らかになったため、2011年度より改めることにします。

実用英語検定（英検）では、文部科学省は高校卒業までに2級もしくは準2級合格を推奨しておりますが、2010年度卒業生のほぼ8割が英検2級に合格しました。準2級は1名を除き全員が合格しました。高校生としては難関級の準1級には1割強の生徒が合格して卒業しました。なお、2年生はほぼ8割の生徒が2級に合格しております。1年生では準2級に半数程度の生徒が合格しました。

進研模試（2011年2月実施、高2生対象「センター試験早期対策模試」）で偏差値学年平均が65.3で、昨年より0.4ポイントアップし、2年連続大阪の高校の中でトップの成績となりました。高3生対象の総合学力マーク模試（2010年6月実施）では偏差値平均は61.8で府下の高校の中で第3位でした。一般の高校生との英語力比較という点で、進研模試においてもトップクラスの成績となっているこ

とは評価できると考えております。

TOEIC、英検、進研模試という指標で英語力が着実に向上している結果から判断すると、外国人教員と日本人教員の指導を組み合わせた本校独自の「セミ・イマージョン英語教育」と、自分の英語力に合ったクラスで授業を受ける「習熟度別クラス編成」による指導がうまく機能していると評価できます。

ただし、2010年度初めての試みとして、日本の大学受験問題対策を必要としない帰国生徒のために、「文法・演習」クラスの代わりにレベルを異動しての「TOEIC」クラスの受講を認めたことが、一部の生徒の学習に良くない影響を与えたことがアンケート調査の結果で判明しました。このため、2011年度は従来のシステムに戻しております。

なお、アンケート調査によりますと、9割を超える保護者は、本校で生徒の英語力が向上していると考えております。一方、生徒へのアンケートでは、1年間で自分の英語力が向上していることを実感している生徒が7割強いる反面、3割弱の生徒は実感していないという実態が判明しました。客観的な指標でみる限り、個人差はあるにしても生徒の英語力は間違いなく向上しているにもかかわらず、学習の成果を実感できないのはクラスメートの英語力と自分の英語力を比べてしまうところに主な原因があると考えられます。客観的な視点に立って自分の英語力を評価できるような指導、生徒の自信につながるような指導が大切になっていることがわかります。この点は2011年度の取り組みに活かしていきたいと考えております。この取り組みの一つとして、生徒個人の英語力のステップアップに応じて学べる e-learning の導入を検討しています。

(4) 国際教育

「生きた英語」教育と同様に大切にしている国際教育については、教育課程（カリキュラム）は学年により順次、理解を深める趣旨で設計しています。1年次に「世界地理（World Geography）」で地理的観点から世界のことを学び、「世界史」と「日本史」で歴史的観点から世界及び日本を学んでいきます。2年次には、「国際理解（Global Studies）」で、国際社会が抱えている諸課題・諸問題をトピック別に学び、「World History」でアメリカの教科書を使って異なる視点から近現代史を学びます。3年次には、「公民（Civics）」や「地域研究（エリアスタディ）」、「国際関係（International Relations）」、「政治・経済」で、政治システム、人権など市民生活に関わる事項、国連等の国際機関、国際政治・外交などを学びます。カリキュラム上、1年生から順次、国際教育を展開していますが、生徒の理解・関心に対応する教育課程になっていると評価できます。

1年～2年次の国際教育を土台として、3年生全員が参加する模擬国連（関西高校生模擬国連大会）での活躍は目覚ましいものがありました。模擬国連は、国際問題を英語でディベートする高度な知的プログラムで、本校の国際教育の重要な核と位置付けており、3年間の英語・国際教育の集大成とも言えるイベントですが、確かに個人差はあったにせよ、生徒たちが積極的に議論に加わり活躍できたことを高く評価しております。

今回の模擬国連では、“Water for Life”という大きなテーマの下、“Sanitation” “Access and Affordability”などのトピックについて議論しました。第20回記念大会とすることもあり、日本ユニセフ協会大使のアグネス・チャン氏による特別講演もありました。11校の参加校・約200名の高校生が参加した中で、生徒全員が参加するのは、主催した京都外大西高校と本校の2校のみでした。他校は代表者のみの参加でした。希望者が代表として参加することと、生徒全員が参加することでは、教育のあり方や指導の仕方に大きな違いが出てきます。全員で参加するためには、教育課程の工夫に加えて、多様な学力・英語力の生徒を包含して丁寧に指導しなければなりません。3名の社会科教員による指導の下、他校に比べ事前準備も行き届いていたと評価しています。実際、テーマ・トピックに関する知識量や問題点の識別力においても優れていました。大会当日はブロック・ミーティングやインフォーマル・ディベートにおける活躍も目立ちました。アンケートでは8割の保護者が「子どもは国際的なこと、社会や世界のことに関心を抱くようになった」と答えておりますが、模擬国連参加は本校の国際教育にとって大きなモチベーションとなっていると評価できます。

(5) 少人数教育及び生徒への対応

本校は少人数教育で生徒一人ひとりを丁寧にケアすることをモットーとして教育に取り組んでおりますが、「生徒の気持ちや思いをよく理解してくれる」という項目について、9割を超える保護者が肯定的な回答を寄せています。保護者が、生徒一人ひとりをケアする教職員の姿勢を高く評価して下さっていることに大きな励ましを受けております。しかし、生徒へのアンケートでは肯定的な回答が7割強にとどまったことに、指導の難しさを感じさせられました。生徒の気持ちを理解しつつも、時には生徒の成長のために厳しいことを言う必要に迫られる場面があります。生徒の「今の気持ち」を大切にしつつ、将来の生徒の成長を期待して、第一に「生徒の成長のために」という視点に立って、ぶれることのない指導を心がけていく必要を感じております。

なお、「先生は熱心に授業に取り組んでいる」というアンケート項目では、保護者全員が肯定の回答を寄せており、9割近い生徒が肯定の回答をしております。教員の熱心な指導が評価されていると考えております。同時に、少人数教育によって教員と生徒の距離が近いという特質もあり、生徒たちは教員の熱意を感じていることもうかがえます。

その他の項目では、「授業でわからない点があれば、後で先生に個人的に質問できている。」「担任の先生は親身に相談にのってくれるので信頼している。」では、それぞれの項目で保護者・生徒の8割以上が肯定的に回答しております。

少人数校ならではのきめ細やかな指導が評価されていることをしっかりと受けとめ、今後とも「生徒の成長」を第一に見ずえて、「血の通った教育」を実施していきたいと考えております。

(6) ホームステイ・課外活動

2009年度は新型インフルエンザ流行のためオーストラリア・ホームステイを中止しました。このため2010年度は1年生に加え、2009年度に参加できなかった

た2年生が参加しました。従来ケアンズで実施してきましたが、初めてバイロンベイ（ゴールドコーストより車で南へ約1時間のオーストラリア大陸の最東端の町）で実施しました。プログラムは従来通り、午前中は英語学校での学習、午後は各種アクティビティを実施しました。実施場所が変わったことによる大きな違いとしては、ケアンズに比べ日本人がはるかに少なく適切な環境であったことがあげられます。また、ホストファミリーも概して良心的な家庭が多く、生徒への対応も良かったとの評価が寄せられました。現地小学校での交流などのアクティビティに積極的に取り組む生徒たちが多かったことも評価できます。なお、2011年度からはロータリークラブと連携し、ロータリーの「次世代奉仕部門」の趣旨を取り入れ、更に充実したプログラムとなるよう検討していきます。

課外活動としては、神戸北野坂（異人館街）散策、京都伝統工芸体験（京七宝など）、伝統文化活動「天満天神繁昌亭での落語見学」、平城遷都1300年祭・藍染め体験、スポーツデー、台湾研修旅行などを実施しました。国際人教育のひとつの土台として、「自国及び自国の文化・歴史を知る」ことが大切ですが、実際に体験することで日本文化に触れる活動を数多く実施しました。アジアの隣国・台湾への研修旅行も異文化体験の重要な機会になったと思われまます。一方、生徒へのアンケート調査で課外活動の趣旨が十分に伝わっていないことが判明しました。活動の目的・趣旨を踏まえた上で、生徒が主体的に参画できる体制を構築する必要を感じております。この反省に立って、2011年度は生徒会を発足させました。生徒会がうまく機能し、教員と調整しつつ、生徒が主体的・自主的に課外活動に参画できるよう指導していきたいと考えております。

（7）進路指導、進路実績

2010年度3年生は、国際系・政策科学系・法学系・外国語系の大学・学部を志望する生徒に加え、航空系・自動車系・美容系の専門学校への進学や就職を希望する生徒など、進路希望は多岐にわたりました。推薦入試、AO入試、一般入試の3つの入試形態への対応、また推薦入試とAO入試では大学・学部での指導の仕方が異なり、生徒個人の学力や資質、興味・関心などをくみ取りながらの指導で、17名に対し2名の教員で進路指導を実施しました。AO入試で一次試験に合格しながら2次試験で不合格となった生徒もいましたが、辛い経験をばねに一般入試に切り替え合格した生徒もいました。進路担当教員も生徒の要望に根気強く柔軟に対応し、生徒たちもよく頑張ったと評価しております。

卒業生17名の進路実績は次の通りです。早稲田大学国際教養学部1名、関西学院大学総合政策学部3名、関西大学法学部1名、立命館大学政策科学部1名、関西外国語大学英語キャリア学部1名、同外国語学部1名、同国際言語学部2名、同短期大学部1名、近畿大学法学部1名、大手前大学総合文化学部1名、大阪航空専門学校1名、ホンダテクニカルカレッジ関東1名、FROMHANDMEIKUPアカデミー1名、株式会社ドライバーズスタンド1名。

アンケート調査では、保護者・生徒ともほぼ9割が、本校の進路状況や進路実績を評価しております。

進路について、ほとんどの高校は、その学校の優秀な生徒が合格した難関・有名大学等の合格実績（累計）の公表にとどめています。しかし、本校はすべての卒業生の進路実績を公表しております。これは、進路指導に学校として取り組み、生徒一人ひとりの希望を汲み取って丁寧に指導する、少人数校ならではの進路指導に自信があるからです。

(8) 施設・安全

2010年度特記事項として、11月初めに隣の校舎への移転を行いました。新館から本館への移転で、校舎は以前より古くなりましたが、本校が使用している3階フロアはフローリング、壁の塗り替えを行い、生徒の学習環境がより良くなるよう整備しました。教室等の施設面積は2倍近くになり、ホームルーム教室・職員室、その他の教室も広くなりました。多少ゆとりもできました。また、防犯面では、移転に伴って守衛が1階に常駐するよう調整しました。その結果、「防犯の面の管理が行われていて、安心して学校生活を送れる」と生徒の9割が回答しています。今後とも、防犯・安全面に留意し、生徒が安心して学べる環境作りに努めます。

(9) まとめ

英語力が大阪府の高校の中でトップクラスに入るなど、本校の教育力は着実に向上しております。その結果、ほとんどの保護者が「本校に子どもを入学させて良かったと思う。」と答えてくださっており、教職員は非常に勇気づけております。しかし同時に、100%に至っていないことを真摯に受けとめなければならないと考えております。また、教育活動の諸分野で改善すべき事項があること、英語教育・国際教育を更に充実させるにはいくつかの課題があることが、「自己評価」実施過程で明らかになりました。すべての保護者・生徒に満足していただける教育の実現は至難の道ではありますが、少しでもこの目標に近づけるよう、教職員一同気を引き締め、誠心誠意、教育活動に取り組んでいきたいと考えております。

以上

【注記】保護者・生徒へのアンケート調査について

生徒・保護者へのアンケート調査につきまして、調査項目毎に「よく当てはまる」「やや当てはまる」「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」「わからない（判断できない）」の5択から選択する形式をとりました。アンケート結果は、「よく当てはまる」「やや当てはまる」を肯定の意見として、「あまり当てはまらない」「全く当てはまらない」と否定の意見として集計しました。「わからない（判断できない）」については、プラス・マイナスのいずれの意向が強いかをより鮮明にするために除外して集計しました。

【2010年度学校関係者評価】

2011年10月1日（土）に2010年度の学校運営・教育活動に関する学校関係者評価委員会を実施しました。学校評価に関する本校規定に従い、教職員6名及び保護者代表（PTSA 役員）6名の計12名が出席し、「2010年度自己評価」及びその他の事項について検討しましたが、以下に学校関係者評価委員会で出された意見・議論された事項を下記にまとめております。

1) 学校生活及び授業全般について

保護者の視点から見ても、生徒たちは有意義な学校生活を送っており、授業も楽しそうで、学力も着実に向上していることが分かるとのことでした。しかし、子供たちは家庭で授業内容を詳しく話すわけではないので、授業の様子を見ることが出来る機会が提供されるとありがたいという意見がありました。

毎年5月に1日に限定して授業参観を行っておりますが、普段の生徒の様子がより分かり易い時期（例えば、1年生も学校生活に慣れて自然な姿が見える10月頃）に1週間程度の参観期間を設けることが望ましいのではないかと思います。日を限定せず1週間程度オープンスクールを行えば、仕事をもっている保護者も見学しやすいという意見が出ました。一方、日頃は英語で自然に発言している生徒が、保護者が見ている参観日には緊張して発言を控える傾向があるため、教育活動への影響を考慮して検討しなければならないという意見も出ました。

2) 英語教育について

生徒たちの英語力が、概して相当向上していることは英検の合格状況、TOEICのスコア、進研模試での偏差値の伸びなどの客観的なデータから確認できます。家庭では実際に英語を話している子供の姿を目にする機会はなかなかないけれども、映画を観るとき、洋画は英語で見るといった報告がありました。進路指導担当教員からの報告によりますと、今年3月に卒業した生徒から大学等の様子を聞いたところ、卒業生の多くは、本校の授業が大学よりも充実していると言っているとのことでした。また、本校在学中は自分の英語力に自信がなかったが、大学ではトップレベルであることがわかり、本校で英語力を大きく伸ばすことができたことに進学して初めて気づいた卒業生もいたとのことでした。

3) 国際教育について

英語でグローバルな課題について討論できるまで育成することを目指す国際教育について、子供たちは日本のことだけでなく、世界的な視野で物事を見るようになったこと、様々な分野に興味を抱くようになったとの報告が保護者からありました。また、読書習慣がなかった子供が、自ら進んで本を読み、様々な知識を身に付けたいと思うようになったとの報告もありました。生徒たちは英語力だけでなく、幅広い教養を身に付けなければならないと認識している様子をうかがうことができました。また、一般の高校とは違い、パワーポイントを用いてプレゼンテーションを行うなど、大学に進学してからも役立つ実践的な教育を高く評価する声がありました。また、国際系の大学に進学した卒業生からは、本校の国際教育は、大学の授業より内容が充実しており高度であるとの話を聞いているとの報告がありました。

また、海外帰国生について、確かに英語力が高く TOEIC のスコアが 900 点を超えている生徒がいますが、英語ができるのは帰国生だからという理由だけではないとのコメントがありました。TOEIC で 800 点～900 点を超える生徒は、英語だけでなく、本校の国際教育の中で良い刺激を受けて、色々な分野に関心を抱き自分から学んでいるとのことでした。海外経験がなくとも、英語力が著しく伸びる生徒は、幅広く自ら学ぶ姿勢があるとの報告もありました。

4) 少人数教育及び生徒の指導について

「先生は生徒の気持ちをよく理解してくれる。」というアンケート項目に生徒の7割強が肯定的な回答をしている反面、3割弱は否定的な回答をしていることに関して、生徒の将来を考えた長期的視点に立った指導の結果、生徒たちは「指導が厳しい。」と感じていることが主な要因だと考えられるとの報告がなされました。学校としては、長期的視点に立ったぶれない指導が重要であると考えております。これに対して、保護者からも、子供たちはいずれ理解できる 때가来るので、生徒の将来を考えた指導を続けてほしいとの要望がありました。

5) ホームステイ・課外活動について

ホームステイについては、従来オーストラリアのケアンズで実施してきましたが、2010年度よりオーストラリアのバイロンベイ（ゴールドコーストより車で南へ約1時間の小さな町）に変更しました。ケアンズに比べ日本人が少なく、ホームステイ・ファミリーも概して良心的に受け入れてくれてお

り、生徒たちの多くは満足している様子であることが報告されました。一方、課外活動については、生徒の7割は「充実している」と答えているものの、3割は否定的な回答であったとの報告がありました。学校としては、「楽しい」だけでなく、文化・教養の世界を広げるとともに、国際教育を実施する学校として日本の伝統文化に親しむ活動も実施していきたいと考えております。保護者も同意され、子供たちが楽しいと感じる活動に限定することなく、日本の伝統文化活動など、学校を通してでなければ自分ではあまり体験しない活動を続けて実施してほしいと要望されました。

6) 進路指導・進路実績について

進路指導担当教員より、本校の進路指導は、生徒の興味・関心を汲み取り希望の進路実現を基本方針としている旨の説明がありました。このため、難関大学へ進学した生徒の成績が一番良かったとは必ずしも言えないとのことでした。受験方法としては、一般入試で進学する生徒がいないわけではないけれども、むしろ推薦入試・AO入試を受験する生徒が多く、「模擬国連」などの活動がアピールポイントとなっているとのことでした。学校としては、あらゆる受験形態にも対応し指導するように心がけているので、どのような方向に進みたいか生徒が決めてくれさえすれば、全力でサポートする旨の説明がありました。

保護者より、一般の高校では担任1人に対し生徒40名で進路指導が行われているのに対し、本校では大変手厚い進路指導がなされており感謝している旨のコメントがありました。

7) まとめ

2010年度自己評価を基に学校関係者評価を行いました。委員からは上記に記しました通り肯定的な意見が数多く出されました。本校の学校運営・教育活動は概ね満足できるものと評価できます。

以上